

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471100236		
法人名	医療法人 茜会		
事業所名	グループホーム みやき		
所在地	三重県熊野市久生屋町541		
自己評価作成日	平成28年10月21日	評価結果市町提出日	平成29年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kihon=true&amp;JizvosyoCd=2471100236-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kihon=true&amp;JizvosyoCd=2471100236-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 11 月 8 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りを大切に、利用者のペースで、ゆったりと安心できる日常生活を送って頂いており、各居室からは四季を感じる庭を眺めることができ、時期の果物や野菜を収穫する楽しみなども支援しています。又御家族や知人の面会時など気兼ねなくゆっくりくつろいで頂けるように心掛けています。週に1度、音楽療法士を迎え、昔ながらの地元の行事や生活の話、懐かしい歌や食べ物など回想法による心のマッサージ、脳の活性化を図っています。施設近辺には、世界遺産もあり、外出や外食も楽しんでします。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中にある事業所には、四季を感じる事ができる畑や果樹園がある。各居室からは庭園が見渡せ、散歩したり野菜や果物を収穫することが利用者の楽しみの一つとなっている。廊下の入り口には「今日のスタッフは・・・」と、スタッフの写真が名前入りで貼ってあり、家族来所時によくわかるような工夫がされている。利用者の回想法に繋がる様に居室には「華麗なる一族」として大切な家族写真が名前入りで貼ってあるなど、職員のアイデアが至る所にある。又、時間をかけて利用者に関わることで把握した一人ひとりのニーズを実践するために個別ノートを良く利用するなど、看護師であり豊富な経験を持つホーム長を中心にスタッフ全員のチームワークの良さと連絡・情報の共有化を図っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な共同生活を志し『あわてず、ゆっくり、のんびりと』の理念を廊下の壁に掲げ、職員間で共有し実践に繋げている。	事業所の理念「あわてず、ゆっくり、のんびりと」を廊下の壁に掲げ、スタッフ全員が実践しながら共有している。利用者を生活の主体者として捉え、理念を常に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、事業所の秋祭りや子供達の慰問の際には地域の人や老人会にも呼びかけ、集会場で行う盆踊りにも参加、日々の散歩や近所のお店に見守りをお願いしたりと交流を持っている。	地域との交流が大切と常に考えており、今年は隣町から見学者の受け入れをした。また、地元の盆踊りに参加したり、日常の散歩を通じて地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方や、地域の方、久生屋地区社会福祉協議会の方などに推進委員会に参加して載っているのので、認知症についての相談や対応の仕方などお話ししている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、熊野市健康長寿課、社協久生屋支部長、民生委員、地域代表、家族代表の方々に参加して頂き、家族の声や、介護の相談に乗ったり、試食会を行ったり、研修情報の提供を受けたりし、サービスの向上に努めている。	年6回開催し、行政、家族代表、民生委員、地域代表などの参加で併設事業所と共に行っている。事業所の利用状況を報告したり、その他の意見交換が行われている。包括支援センターより歯科全般の助言を貰い、利用者の口腔ケアに関して受診に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本年度はスプリンクラーの設置の為連絡を密にした。包括支援センターとは運営面や事務処理等、常に協力関係を築くよう取り組んでいる。	健康長寿課包括支援センターの職員に運営推進会議に参加してもらい、町担当職員とも日常的な連携を深めるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵は自由に外に出られるように開放し、全職員で言葉の拘束、身体の拘束のないケアに取り組んでいる。	玄関及び居室のカギは自由に出入り出来る様に無施錠である。代表者・全職員ともに何が拘束に当たるのかを研修し、伝達し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待、高齢者の虐待を防ぐなどの研修報告を学び、入浴時などにもチェックを行い見逃しのないように注意を払い防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用の機会がなくていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明を行い、疑問にはその都度十分な説明を行っている。解約・改定の際にも事前に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に日頃の様子をお話し、意見や要望をお伺いし、どんなことでも話して頂ける関係作りに努めている。又運営推進会議に家族の方も参加して頂き、出された意見要望は質の向上に活かしている。	家族代表に運営推進会議に参加してもらっている。来所時には話やすい雰囲気づくりに心がけ要望や希望など聞いている。毎月、近況報告にスナップ写真や利用者の一言を書き加えて送り、家族から喜びと安心の声もらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、職員間では遠慮なく意見や提案を言い合える関係性で、代表者とも話し合う機会が多く現場の意見を聞き入れてくれている。本年度は居室センサーを1箇所増やした。	昨年からの職員の自己評価表を提出する機会を設けている。職員からは日々のミーティングも含めて多くの意見や提案が出て、ケアサービスに反映させている。	職員が主体的に運営に参加出来る様に、更に職員のレベルアップに繋げるためにも年間計画に基づいて外・内部研修(身体拘束・看取り・接遇に関して)の開催が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に心掛け、職員各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にも参加し、施設内での勉強会なども行い働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設を訪問し同業者と交流、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学してもらったり事前に御自宅や施設に訪問し、本人や家族から要望等をお聞きし安心して暮らして頂けるようサービスを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と連携を取り、不安、要望等の話し合いを行い本人の様子、生活などを拝見させて頂き良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー、介護職員でカンファレンスを行い何が必要かを見極めサービスに導入している。他のサービスは利用していないが併設しているデイサービスに遊びに行ったりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の苦にならない程度の出来る事を考え掃除等の日常的な事や裁縫、洗濯干したみ等の仕事を共にお手伝い頂き暮らしのパートナーの関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の手紙で状況報告や変化などは電話で報告し、遠方の御家族には電話や、年に何度かの面会時に、近辺な方は普段の面会時に本人様を共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	個別に地元の祭りや馴染みの場所に出掛けている。買い物等で顔見知り会ったり、外出時に御家族の家に寄らせて貰ったりし、馴染みの人や場所との関係維持に努めている。	馴染みのスーパーや実家訪問などへは、個別対応でよく出かけている。また、家族・友人・知人が気楽に訪ねてくれるような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく参加出来るレクリエーションを増やし孤立を防ぎ、利用者同士が関わり合い支え合えるよう職員が配慮し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られたり、入院した人を近くに行った時には訪問したり、御見舞に寄ったり御家族は買い物などで合うと声を掛けて頂いたり相談にのったり、近くに来た時には当施設に顔を出してくれたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中、遠慮なく話せる関係性、言い出しやすい雰囲気の中希望や意向を汲み取り、又家族の希望もお聞きし、個々のノートも利用しその人らしい生活が出来るように支援している。	日々の支援の中で聞いた事は利用者の個別ノートに方言も入れて記入し、職員間で共有しながら希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な場合は、表情やしぐさの反応を見て思いを感じ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、ケアマネージャー等から、これまでの生活歴。経過経緯等をお聞きし、入居後は家族等の面会時に色々な話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態にあった支援を行い過剰介護しないように心掛けている。毎日のバイタルチェック、機能訓練を行い変化のある時には嘱託医に相談し健康管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティング時に変化があれば随時に話し合い、月に一度、職員全員で意見を出し合い3ヶ月毎に見直し、本人、家族の意向に沿った現況課題を介護計画に反映している。	介護計画は本人・家族との話し合いや利用者の個別ノート・介護記録に基づき、月に一度担当職員の意見も聞きながら作成し、支援内容の実施状況を評価している。モニタリングは3か月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日・夜勤の状態を記録し情報や注意点など、朝のミーティング等で情報の共有を行い援助や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に応じた支援を行い、食事の時間、形態の変化、個別の外出、他様々な面で柔軟に対応が必要で実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の見守り、園児の来訪、外部より講師を招き週に1度の音楽療法、買い物、外出など地域資源を把握し、外部刺激も受けながら、楽しみのある暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科嘱託医とホーム看護師は連携を密に取り、往診、かかりつけ医への受診支援等、利用者一人ひとりが適切な医療をうけられるように支援している。	内科嘱託医の往診は2~3か月に1回あり、利用者の他科受診は職員が支援している。ホーム看護師が常勤しているため、日常の健康管理や医療連携に対する支援は充足している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師は常勤している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と相談したり、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護4になった時点や医療行為が生じた時、食事摂取量が減り、嚥下状態も低下時など、今後について話し合っている。御家族、本人の希望を聞き、終末期に向けその人らしく過ごす事が出来るように支援している。	入居時や医療行為が生じた時点で、本人・家族とは話し合いを行っている。看取りについては医師・看護師・職員との連携が重要視されることから、事業所として支援方針の一つである職員研修を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、皆が見える所に貼っている。常に看護師に連絡が付く状態で普段から急変、応急処置の話はしており、落ち着いて行動できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定し夜勤者1人でベッドからの避難や昼間の訓練を年に2回熊野消防の協力を得て防災訓練を行なっている。地区の区長さんや、町内の元消防士さんなどに協力をお願いしている。	年2回の防災訓練および夜間を想定した訓練をし、避難時間や避難経路の確認を行った。市販の非常食は現在の利用者には合わず、事業所の発電機を使用して高齢者用に炊飯する為、お米での備蓄としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛け、利用者の気持ちに添う支援を行っている。接遇マナーの研修会などにも参加して心掛けている。	居室入り口に暖簾をかけ、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように工夫をしている。また、何事もさりげなく行うように、日頃から利用者の人格を尊重した声掛けや対応をスタッフ全員で心がけ実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく言えるように関わり合いを多くもっている。自己決定の出来ない方には思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は各自起きた時間に行い、昼、夕食も一応時間に声掛けは行うが本人の希望により時間をずらす事もある。日常の過ごし方は各自希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には自身で、出来ない方には、その人らしい服装を選んでいる。毛染めを希望される方は職員が行うが、カットは美容師に来てもらい、似合うカットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や季節の物、地元の物を取り入れた献立を立て、職員も一緒に楽しみのある食卓になるように努めている。時々外食なども楽しんでいる。	献立は決まっているが、畑で収穫した野菜などが加わる時がある。3食とも職員が作り、利用者の体調や好みに合わせて食事形態を普通食・刻み食・ムース食と個別対応し、温かい間に職員と食する工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日チェックし、水分摂取が苦手な方には、ゼリー状にしたり、食事を工夫したりと一人ひとりの状態にあわせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを行なっている。自身で出来ない方は職員が手伝うがいや口腔ケアを行なっている。就寝時には義歯を洗浄剤につけ清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導をさりげなくしている。夜間はオムツ3名、トイレ誘導3名。排便はチェック表にてコントロールしている。	排泄表を確認しながら声掛け誘導し、どの対応が一番良いかを検討しながら自立に向けた支援をしている。また、排便に関してホットパックを使用する工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の多い物、暖油、水分などしっかり摂取して貰えるよう声掛けし、排便チェック表を付け個々に対応している。レクの中で腹部マッサージなども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて週2～3回入浴。個々の都合で入浴できない時は日を変えて対応している。普段は入浴剤を利用したり、5/5は菖蒲湯、冬至にはゆず湯など入れ楽しめる	浴槽にバスリフトを備えた個浴対応で週2回入浴している。寒い日は脱衣場に暖房をかけた暖かくするなど健康状態にも配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状態に合わせて、休息や安静を保って頂くようにしている。寒い時期には事前に布団を暖めるなどし、寝付きが良いように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を個々のファイルに綴り、すぐに見られるようにしている。手渡しし服薬確認しており、状態に変化のある時は嘱託医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	綺麗好きな方には掃除を手芸な得意な方は雑巾を縫って頂き、洗濯干し、たたみ等のお手伝いを、音楽の好きな方は音楽療法に参加して頂き、お出かけの計画を立てたりと楽しみのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にドライブや地元のお祭見学、四季のお出掛けなども積極的に支援している。本年度は世界遺産の那智勝浦青岸渡寺に行き、勝浦で行われていた雛めぐりなども見学してきた。	天気の良い日は広い庭を散歩したり、野菜や果物(柿・レモン・柚子・梅など)の収穫が日常の楽しみとなっている。事業所の四季の外出も多い。趣味に必要な物や嗜好品の買い物は個別対応で出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で財布を持たれた方は一緒に買物に行かれた時やかかりつけ医に行った時などお支払いして戴いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は居室から御姉妹や知人と連絡を取り、別の方は年賀状、お礼状を書いて家族や知人とやり取りできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみを出せるよう各居室の入り口に名前を書き、のれんを付け、戸を開けてもプライバシーが守れ、廊下でもゆっくりできるように、お出掛けや行事の写真を飾りコミュニケーションが図れるよう工夫している。	廊下の入り口にはスタッフの名前入り写真がはってある。食堂兼居間は日差しが入り明るく、なつかしい日めくりカレンダーと共に四季の手作りの品や笑顔の行事写真が壁に飾られ、自宅でのんびりと過ごしているように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時のみ位置は決まっているが、それ以外は思い思いに過ごせるよう工夫、声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には月ごと自身で作った工作を飾り、自身で書かれた書道や大きな写真付き家系図を飾り、庭に面した窓からは庭が見え自由に出ることができ開放的で明るく居心地良く過ごせるように工夫している。	職員のアイデアで居室の壁に大切な家族の名前入り写真が家系図として貼ってあり、忘れないように優しい工夫をしている。窓から見える庭の樹木で季節を感じとる工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名札を付け、トイレや浴室などは大きく名前を書いて分かり易くしている。		